

活動に不足した、睡眠を補ふ人、驛々で、櫻蔭會員の方々から贈られた、夏みかんを味ふ人様々である。汽車はこれらの人々をのせて、都をさして走り走る。

一週間餘りの旅に、すつかり、甘いのごかな氣分になつて三十有餘の子等を、ふたゝび、活々した、烈しい現實の巷に返すべく、汽車は、用捨なく、行く。走る。東へ。東へ。(文科一部四年)

會 告

□次號原稿募集

研究、詩文、所感其他何なりとも、奮つて御投稿あらん事を、賛助員及び在校會員諸姉に切望いたします。

但、締切期日十月下旬。(編輯係)

小倉中院趾

さみたれや色紙へきたる城の趾 (芭蕉)

嵐 山

花の山二町のほれは大悲閣 (芭蕉)

□會費拂込に就いて

今般、本會は會員諸姉の御便宜を計り、振替貯金口座(東京貳壹五〇貳番 喜多見さき)を利用致す事に定めました。就ては今後本會々費は該口座へ御拂込み下さいます様、右御通知申し上げます。(庶務課)

雜

報

第三十二回文科會記事

大正四年度第一回の文科會は、さる五月二十二日午後一時から本校講堂で開かれた。

學校の五月は、何だか忙しくあわただしかつたので、私共に任された今年の文科會を、どうして少しでも高いレベルにあげやうかといふ事も、充分考へてゐる間のない中に、四年が旅行をする、すぐその後で會をする、と、いふ都合になつてしまつたのである。それでいつもとは少しちがつて、四年に朗讀をして貰ひ、三年、二年で談話をする、といふ事として、次のプログラムが組立てられたのである。

一、開會の辭

二、英國の女子体操專門學校につきて

三、英語朗讀
The Sky
The Table Turned
I Wander Lonely

四、過去に於ける日本の女子

五、國文朗讀

六、青島陷落後に於ける對支關係

七、閉會の辭

二階堂 先生

文四 平井 セツ

全 須田 シゲヨ

文二 島山 トシ

文一 小山田 テル

文三 小笠原 チャウ

佐藤 千代

山田 千代